

# 行政視察報告書

令和4年11月10日

西脇市議会  
広報広聴特別委員会

1 視察実施日

令和4年11月10日（木）

2 視察先

多可町議会

3 視察事項

高校生議会について

- (1) 高校生議会を実施するにあたって、普段授業等で忙しい学校側の理解や協力をどのようにして得られたか。
- (2) 高校生議会に登壇する生徒をどのように選抜しているのか。
- (3) 高校生議会開催における準備段階でのポイントは。
- (4) 行政ではなく議会が主体となっていく高校生議会のメリット・デメリットは。
- (5) 高校生議会からの提案で、実際に政策に反映できた事例は。

4 参加者

広報広聴特別委員会

委員長	村岡 栄紀	副委員長	高瀬 洋
委員	藤原 秀樹		藤原 哲也
	森脇 久夫		藤原 桂造
	坂部 武美		(寺北 建樹 欠席)
事務局	金子健太郎		

## 所 感

村岡 栄紀

多可町「高校生議会」の視察を通じて感じたのは、まずは普段忙しい高校生をはじめとする学校関係者の協力を得ることが大きなキーワードであり、多可町議会さんは多可高校の生徒会の皆さんにターゲットを絞り、高校生の視点でまちを活性化することを考えたり、議場にて自分の考えや意見をしっかりと発表する体験などを通じて、社会貢献や人間的成長に繋がるという「高校生議会」の意義を、学校関係者と生徒さんにしっかりと理解していただき、議会に依頼されたから仕方なくではなく、積極的な参加をいただいているという点が非常に大きいと感じました。

「高校生議会」の内容に関してですが、スタートした当初は町長や理事者も質問に対して答弁を行うケースがあったようですが、主催者はあくまでも議会であるという前提で、今では高校生の一般質問に対しては議会が答弁を行い、「これはいい質問だ」と議会が判断した項目に関しては、議会から理事者に政策提言という形で申入れを行うといったフローになっており、市民の声をしっかりと反映するという議会の責務も考えた方式になっているのが素晴らしい。やはり理事者主催よりも議会主催の方が開催する意義があると感じました。

多可町議会さんが「高校生議会」の取組を始められた理由として、選挙権年齢の引下げを契機として、主権者教育の向上や政治への参加意識の高揚を図り、実際に選挙に行ってもらおうという事を目的とされているところは、西脇市議会も同様に目指すところではありますが、選挙に行ってもらおうことが最終の目的ではないと私は考えます。

高校では、探究型の授業が重視されつつあり、本市の西脇高校でもSDGsなどをテーマとした探求型の授業を展開されていると聞きます。一方、県立高校教育改革では、今後探求型授業をより進めたSTEAM学科等の新設が検討されています。STEAMとは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学・ものづくり）、Art（芸術・リベラルアーツ）、Mathematics（数学）の5つの単語の頭文字を組み合わせた教育概念であり、技術革新が進み人工知能の影響で世の中が大きく変化する中で生まれました。

そして、今まさにSTEAM教育が必要と言われているのは、そればかり、社会変化にあります。ロボット化が進んでいく中でロボットに使われるのではなく、「新たな変化を生み出せる能力を持つ人材」が必要とされているからです。これからの社会においては、文理融合で実践的な課題解決に向けた教育が重要になってきます。そしてそれら

の教育を受けた生徒さんが地域の課題を考え、解決する。そのためにシンクタンクになるべきなのが、まさに「学校」であり、その発表及び実践・実現の場としての一環を担うのが「高校生議会」ではないのかと私は考えます。

最後に、本市の将来の発展のため、高校と連携して、地域の地域課題を考え、解決するとともに、新規事業を多数生み出す土壌となるような仕組みの構築の中で、「高校生議会」の実現と成功を目指して頑張っています。

高瀬 洋

西脇市のお隣の多可町は、高校生議会を7年も続けて行っているということで、高校生議会の進め方や長年続いている秘けつ等を調査するため、視察を行った。

多可町には高校は県立多可高校1つしかなく、その規模も1学年2組というこぢんまりした高校である（西脇市には、県立の西脇高校・西脇工業高校・西脇北高校の3校がある）。毎年7月に生徒会の役員選挙があり、高校生議会は多可高校の生徒会を対象に新生徒会結成後の最初のイベントとして開催しているとのことである。生徒会活動の一環であるので、事前の説明会やワークショップ等は放課後の時間を割いて本番までに数回行われる。

長年続いているので、例年の行事として学校側にも認知されている。生徒会にとってもこれから始まる生徒会活動と議会活動とをダブらせて、生徒会の意義や役割を生徒が認識できる良い機会になっているのではないかと想像する。

一方、西脇市議会の議会報告会は、授業のコマを使わせてもらい、学校の授業の一環として開催させてもらっている。あくまで、学校相手であるのでハードルも高くなるように思う。また、3高校あるので各校のバランス等にも配慮しなければいけない。今の高校生を対象とした議会報告会を高校生議会にレベルアップという考え方ではなくて、多可町のように生徒会を対象とした高校生議会として計画するのが良いのではないかと考えさせられる視察であった。大いに参考にできる収穫があったと考えている。

藤原 秀樹

今回、多可町議会さんに行き、高校生議会の取組について学びました。

高校生に議会を体験してもらい、政治に関心を持ち、選挙に行ってもらったり、将来、議員に立候補していただくということで、この取組が始まったと学びました。

兵庫県立多可高等学校の生徒会から数名の生徒さんと生徒会活動の一環で行うと聞き、なるほど生徒会なら選挙もしているし議事も行っているので入りやすいと思いました。

数回の打合せをワークショップとして数回放課後に行い、通告書を作成したり、リハーサル・本番を夏休みに行うのは、学校の授業に影響しないので学校としても協力いただきやすいと思いました。

高校生議会では生徒が議員となって質問し、町議会議員が答弁する形式となっており、この形が良いのかは検討の余地があると思いました。

多可町議会さんも今後の課題で、同じ学校で同じ方法でおこなっているのですが、質問が偏ってしまい、テーマの質問が少なく、議員が答弁するのではっきりした事が言えないことが多い事や今年で7回行っているでマンネリ化してきていると学びました。この課題を西脇市議会ではどうやっていくかよく考えなければならぬと思いました。

高校生が考えた質問などをどう政策に反映していくかも重要であると思います。

多可町は、高校が一枚なので比較的行きやすく、西脇市は三校あるのでどうやって行っていくかをしっかり検討していかなければいけないと思いました。

西脇市議会版高校生議会を行うために、今回の行政視察で学んだことを生かしていきます。

藤原 哲也

今回は、高校生議会の開催が定着化された、多可町議会議会運営委員会の取組を学びに視察訪問させていただきました。

- ① 高校生議会の取組を始めた理由
- ② 高校生議会の開催への流れ
- ③ 高校生議会の開催の定着状況

最初に議会運営委員長より、高校生議会を始められた理由が、公職選挙法の改正により成人年齢が18歳以上に引き下げられたことを受け、高校生を対象に主権者教育の向上、高校生である自分達の声がどのように届けられるのか仕組みを経験してもらうことで、政治に関心をもってもらいたいとの思いで始められたとあり、高校生議会を開催することは意義があると感じました。多可町での高校生議会は、県立多可高校のみ開催されているとの説明でした。

第1回目の高校生議会開催に向けては手探りで進められ、苦労もあったようです。最初は生徒達がテーマに困らないようあらかじめ、議会からテーマを伝え高校生の意見を優先しながら、第一回ワークショップに望まれたようです。今回、高校生議会を進めるにあたり参考

になるお話を聴くことが出来ました。

多可町の高校生議会は今年で7回目の開催をされたとお聴きし、多可高生との高校生議会が定着され成功していると感じました。学校が議会にオファーされるぐらいまでに、また、議会も更なる飛躍が出来るような試みでもあるようです。ここまでの道のりは簡単ではなかったようですが、今では高校生議会の提案で、実現された政策があるとお聴きしました。例えば、バスの時刻表の改正やバス停の屋根の設置等が政策に結びついていると伺いました。高校生は無限の可能性を秘めています。今回学んだことを西脇市の高校生議会に生かせるよう頑張ってお参ります。

### 森脇 久夫

多可町議会の「高校生議会」の取組は7回も実施されてきたことから、説明を受ける中でその取組が「ルーチン化できている」ところまで出来上がっていると感じました。

多可町では対象が多可高校1校であることにより、立ち上げ当初の打合せから現在の開催についてもスムーズにできている要因と思われるのですが、もう一点、「高校生議会」を学習カリキュラムとせず、「生徒会活動の一環」の位置付けにしたことが、授業としての求められる要素を外して行えることになって、やりやすい要因になっていると感じました。そして、高校生議会の開催時期を夏休み期間中としたことで活動時間が作りやすく、継続してできる仕組みにつながっていると思われました。それは、高校側との打合せは5月ごろから始まるものの、実際の活動は一学期期末試験後の午前授業のみとなった時期から夏休み中の期間となっていて、高校の授業や行事、高校生の時間的負荷への影響を最小限とし、準備に集中しやすくなってくると思われるからです。

一方議員側は、高校生から課題と思われる事項を引き出し、それを質問に仕上げるサポートを丁寧にするすることで、参加する高校生の不安を払しょくし、達成感をもたらすことに寄与しているだろうと思います。そのことは高校の先生方にも安心感を与え、継続した取組につながる要因になっているのではないかと感じました。

西脇市で同じような取組を実施しようとする場合は、高校が3校あるためそれぞれの高校の特性に配慮しながら対応することが求められますが、継続した高校生議会を目指すのであれば、西脇市議会と西脇高校、西脇北高校、西脇工業高校の4者が顔を合わせながら連携した取組とすることは必須と考えます。

いずれにしても、18歳から選挙権を持つ選挙制度となったものの、若者の投票率は低い傾向が続いている現状では、主権者教育は重要な

課題と考えられるので、西脇市高校生議会開催に向けて議会として積極的に取り組んでいくことが求められる事項と考えます。

#### 藤原 桂造

多可高校の半数以上が西脇の学生。卒業してからも多可に興味を持ってもらい、西脇在住の学生としても、また高校生活を過ごしたふるさととして、東京大阪方面に進学した学生も将来住んでみよう、あるいは、何か関わってみようと感じてほしい。就職しても西脇多可に帰りたい、そんな思いを持ってほしい。高校時代の故郷として、あの時、多可の議員さんからこんな助言をもらった、あんな答弁をもらったなど、思い起こしていただきたいと思います。

多可町の高校生議会は、体験ではなく実際思っている意見を述べることができるという点で、単なるワークショップ（講習会）ではないと、痛感いたしました。

#### 坂部 武美

多可町議会主催の高校生議会は、多可高校の協力のもと、主に生徒会役員が質問者となり、答弁は議員が行っている。

なぜ、理事者側が答弁せずに議員が答えることとしたのかと聞いたところ、議会が主催の高校生議会であるためとのこと。

高校生が質問したい内容をワークショップ等で事前に調整し、アドバイスをしながら本番に臨んでいる。

質問内容に対して、予算を持たない議会であるため、一議員の判断で明確な答弁を出しにくい場合が多いことは理解できるが、質問した高校生にすれば、質問した内容の最終回答をどのように返してもらえるかが曖昧になる。

通常議会では、理事者側が「検討する」と答弁した場合、その検討結果を再度質問することも可能だし、「検討する」の責任は結論が出るまで継続する。議員が答弁した場合、高校生に成り代わって「高校生からこういう意見がありました、理事者側はどう進めていくのか」という、ワンクッション置いた質問もできるが、議員が答える「検討する」は責任が持てない場合が多い。

理事者側も傍聴しているため、高校生の意見を反映したといえる「路線バスの運行時刻の見直し」や「西脇市から通学する生徒の通学補助」などもあるが、高校生が議場で議員として質問するという主催者教育を経験してもらうことが主な目的になっていると言える。

では、西脇市議会が高校生議会を実施する場合、答弁者は議員か理事者かのどちらにするかという点と、西脇市内の3高校の場合、生徒は市外が多いため、西脇市に対しての質問となれば、質問者の選出を

市内在住の高校生とするのか、市外の生徒でも西脇市に対しての質問を受け入れるのかなどの検討が必要である。

私は、答弁者は理事者側、対象は、市内在住の私学や市外通学している高校生も対象としたい。募集は、議会だより等で公募。